ＮＳ形ダクタイル管解体器具

ＮＳリーダー解体器具

取扱説明書

φ７５～φ４５０用

⚠ ご使用前に必ずお読みください

購入年月日：　　　　　　年　　月　　日

お買い上げ店名：

－お願い－

- この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
- 安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
- この取扱説明書は、お使いになる方が必要なときにいつでも見られるところに大切に保管してください。

この取扱説明書は、ＮＳリーダー解体器具を正しく、安全に使用していただくための作業手順と注意事項を記載したものです（誤った使用方法は、事故・けがの原因となります）

本取扱説明書は、ＮＳ形ダクタイル管の接合及び解体要領そのものに関しては、お客様が理解されているものとした上で、解体器具の説明と注意に限定しています

*本書の記載事項は、予告無く変更することがあります。（091014）

○安全にご使用頂くための注意事項

⚠ 警告　誤った取り扱いをした時に、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

⚠ 注意　誤った取り扱いをした時に、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び、物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので必ず守ってください。

	⚠ 警告
○	作業の際は安全靴・ヘルメット・保護手袋等を着用して下さい
○	接合器具を取り付ける場合は、手足や衣服等挟まないよう注意して下さい
○	鎖取付部を確実に固定しているか確認して下さい
○	レバーホイストを取り付ける場合は、接合器具のフックに確実に掛けて下さい
○	レバーホイストには、決められた荷重のものを使用して下さい
○	管の接合又は解体以外の使用は避けて下さい
○	レバーホイストには、規定以上の荷重をかけないで下さい
○	管や接合及び解体器具を持ち運びする場合、手を挟んだり、足に落としたりしないように注意して下さい。
○	管の解体以外の使用は避けて下さい
○	管や接合及び解体器具を持ち運ぶ場合は、ガイドとシャフトの間に手を挟まないように、ひも等でしばり固定するか、個々に運ぶようにして下さい
○	使用前には、必ず接合又は解体器具の点検を行い、ひび割れ、変形、破損等あるいは部品欠陥等の異常な個所があれば、使用をやめて下さい
○	使用中にひび割れ、変形、破損等あるいは部品欠陥等の異常な個所があれば、直ちに使用をやめ弊社に修理を依頼して下さい
	⚠ 注意
○	本製品はＮＳ形ダクタイル管専用の解体器具です。器具やパイプの破損の原因となりますので、ＮＳ形ダクタイル管以外の解体には絶対に使用しないで下さい。
○	必ず接合器具の連結鎖長さを管の口径に合うように調整してから使用して下さい
○	接合器具をセットする場合、出来るだけ鎖に弛みのないようにして下さい
○	接合時は片引きにならないように、各レバーホイストを均等に操作して下さい
○	レバーホイストを取り外す時、器具が滑る場合がありますので注意して下さい
○	解体時に管の外面塗装を損傷した場合は、専用の補修用塗料で補修して下さい

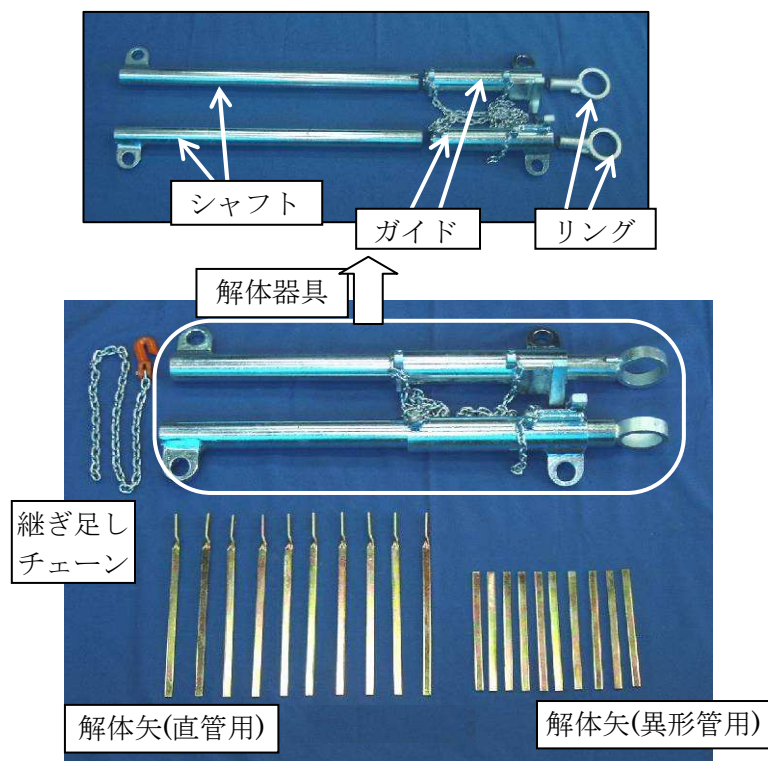
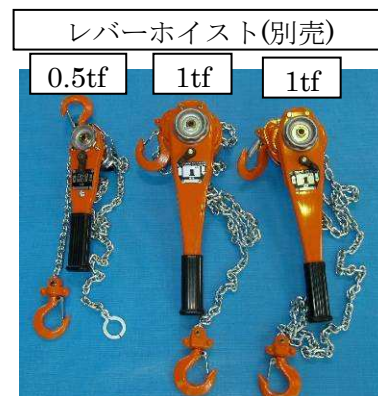
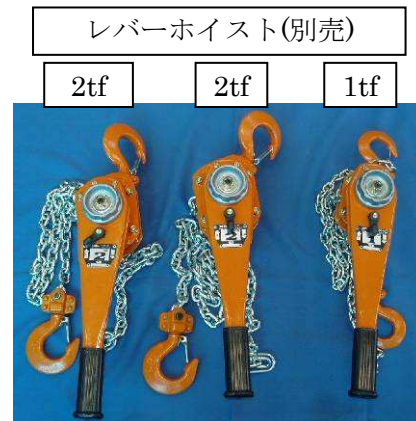
（目次）

ＮＳリーダー解体器具と解体作業に必要な他の器具

<table>
<tr><th rowspan="2">作業名</th><th colspan="2">継手部</th><th colspan="4">各口径の解体作業に必要な器具</th></tr>
<tr><th>受口側</th><th>挿し口側</th><th>φ75～150</th><th>φ150～250</th><th>φ300</th><th>φ350～450</th></tr>
<tr><td rowspan="4">解体</td><td rowspan="2">直管
（接合直後
（滑剤あり））</td><td>直管</td><td rowspan="4">①解体器具
②接合Ⅰ
③レバⅠ又はレバⅡ</td><td rowspan="4">①解体器具
②接合Ⅰ又は接合Ⅱ
③レバⅠ又はレバⅡ</td><td rowspan="2">①解体器具
②接合Ⅰ又は接合Ⅱ
③レバⅠ又はレバⅡ</td><td rowspan="2">①解体器具
②接合Ⅱ
③レバⅡ</td></tr>
<tr><td>異形管</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異形管</td><td>直管</td><td colspan="2" rowspan="2">不要
（φ300～450のNS形異形管の受口はメカニカル継手になります。解体時に必要な工具は「NS形ダクタイル管接合要領書」をご参照下さい。）</td></tr>
<tr><td>異形管</td></tr>
</table>

凡例　解体器具：NSリーダー解体器具（本製品）
　　　接合Ⅰ　：NSリーダーⅠ(接合器具)
　　　接合Ⅱ　：NSリーダーⅡ(接合器具)
　　　レバⅠ：NSリーダーⅠに使用するレバーホイスト(1tf×2個、0.5tf×1個)
　　　レバⅡ：NSリーダーⅡに使用するレバーホイスト(2tf×2個、1tf×1個)

１．ＮＳリーダー解体器具の各部名称と解体に必要な他の器具

(1) 解体器具

(2) φ75～300 の解体に必要な他の器具

(3) φ350～450 の解体に必要な他の器具(φ150～φ300 にも使用できます)

２．解体作業（φ75～450）

警告

本解体器具は、接合直後に解体する場合にのみ口径φ75～φ450の範囲で適用することができます。既設管の解体等、継手の滑剤がない状態では解体力が大きくなり、レバーホイストを用いた本方法での解体ができません(無理な負荷をかけるとレバーホイストが破損し、事故につながります)。このような場合は、ＮＳ形ダクタイル管の接合要領書に記載してある通り、特殊押輪と油圧ジャッキなどを使用して解体して下さい。

注意

接合器具又はレバーホイストは、解体をする口径にあったものを必ず使用して下さい(P1～2参照)。なお、本取扱説明書の写真はφ450の場合を示しています。

2.1　直管の解体

①解体矢の使用本数は８～１２本です。（必要に応じて、本数を増やして下さい）

②解体矢に滑剤を塗布し(写真１)、**解体矢を接合要領書に記載してある方法で打ち込み**ます。この時、写真２の様に打ち込み補助具(現場製作)を使用すると打ち込み易くなります。

写真１　解体矢への滑剤の塗布

写真２　解体矢の打ち込み

③写真３のように、接合器具のフックが管の中心になるように連結鎖長さを調整した後(ＮＳリーダーⅠ又はＮＳリーダーⅡの取扱説明書を参照下さい)、フックの矢印を外向き(継手方向の反対側)にして**接合器具を挿し口に取り付け**ます。また、接合器具は受口に近づけて取り付けて下さい。

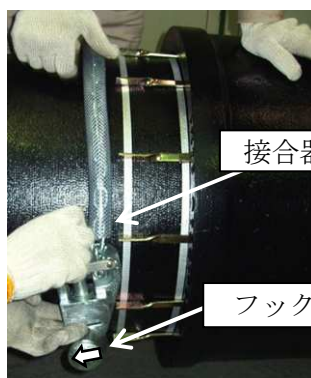



写真３　接合器具の取り付け（解体準備）

④写真４のように、解体器具のガイドを調整します。

写真４　解体器具のガイドを調整

⑤写真５のように、解体器具を管体にセットします。

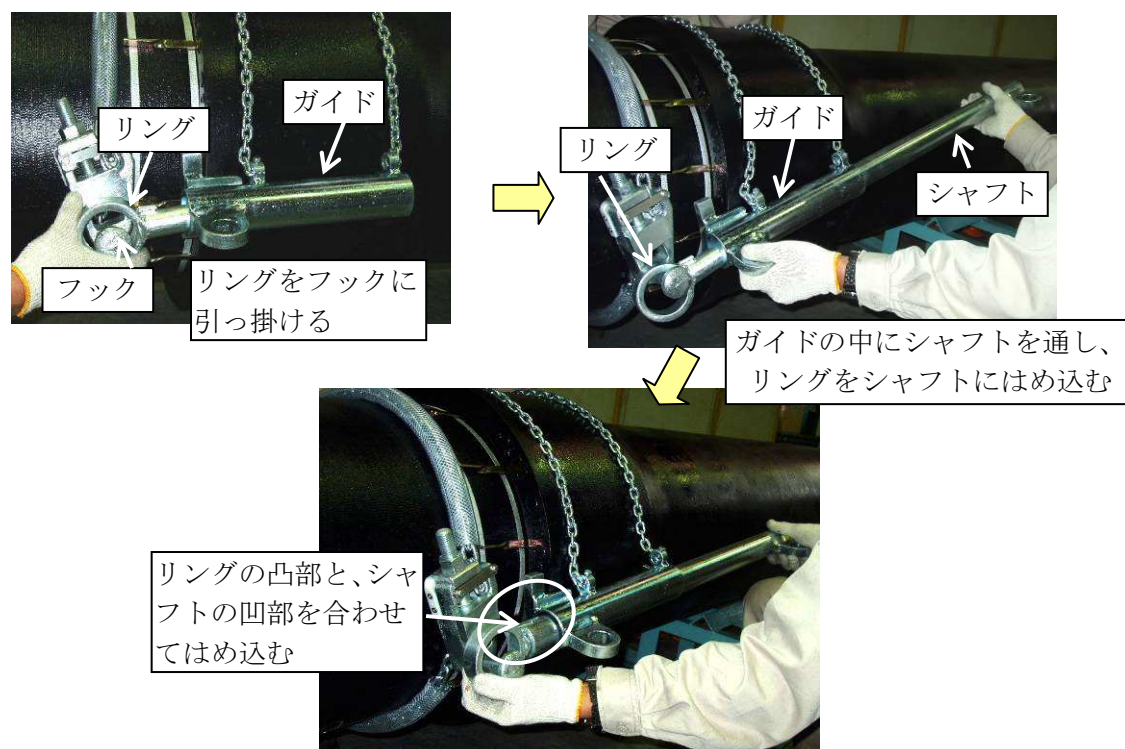



写真５　解体器具のセット

※ライナーをセットした直管受口の解体も、通常の直管と同様の手順で解体して下さい。この場合、解体矢は異形管用解体矢（短い方）でも解体できます。

⑥写真６のように、レバーホイスト（φ75～300：0.5tf 以上、φ350～450：1tf 以上）で解体器具を管体に固定します。レバーホイストの鎖長さが短い場合は、写真７のように継ぎ足しチェーンを用いて鎖長さを長くして固定します。

写真６　解体器具の固定

写真７　継ぎ足しチェーン
（レバーホイストの鎖長さが短い場合）

⑦写真８のように、レバーホイスト（φ75～300：1tf 以上、φ350～450：2tf 以上）をセットし、レバーホイストの柄を左右交互に操作して解体します。

注）負荷が大きいときは、解体矢が正しく打ち込まれていないので、解体矢をチェックして下さい。（過大な負荷をかけると、解体器具またはレバーホイストが破損し、事故につながる恐れがあります）

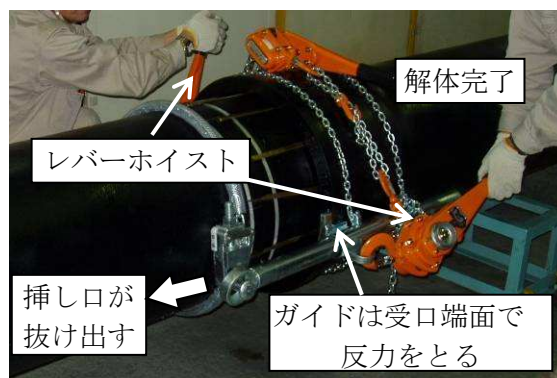



写真８　解体

2.2　異形管の解体

１）直管受口－異形管挿し口

直管の解体と同様に(2.１参照)、写真９～写真１２のように解体します。

（解体矢は異形管用解体矢(短い方)を使用して下さい。）

写真９　解体矢の打ち込み

写真１０　接合器具のセット

写真１１　解体

写真１２　解体完了

２）異形管受口－異形管挿し口

①φ250 以下の場合：“2.２ １）直管受口―異形管挿し口”と同様の手順で解体して下さい。

②φ300 以上の場合：メカニカル継手のため、本解体器具は使用しません。

株式会社　クボテック

東京都中央区日本橋本石町３－３－１０ ダイワビル６階

TEL　０３－３２４５－３７９１